

笠間市健康づくり計画を策定

市健康づくり計画(後期)は、市民の健康づくりの指針となることを目指して、平成29年3月に策定されました。市民の皆さまが健康づくり活動に参加、実践することで、「みんな元気に健康かさま」が実現できるよう、テーマに沿ってご紹介させていただきます。

母子保健計画の目指す姿

すべての妊産婦が、すべての親と子が、健やかに生活できる地域を目指します。

母子保健は、すべての子どもの健やかな発育とよりよい生活習慣の形成につながる生涯を通じた健康づくりの出発点であり、次世代を担う子どもたちを健やかに育てるための基盤です。

妊産婦や子どもの健やかな成長を見守り、心ゆとりを持って子育てできるように、子育て世代を応援する地域づくりを進めていきます。

施策の方向と市民の取り組み

(1) 安心して妊娠・出産できるための支援体制の強化

妊娠・出産を迎える前に、ライフプランを考えたり、妊娠中の心と体の変化を理解したりするなど、正しい知識を選び行動する力を養い、適切な健康管理を行います。

家庭・職場・地域においては、妊産婦が安心して妊娠・出産・子育てできる環境づくりをしていきます。

(2) 乳幼児の心と体の発育促進と育児不安の軽減のための体制強化

子どもの健やかな発育・発達を促すために、規則正しい生活習慣を心がけ、誰もが子育てを楽しみと感じられるよう、支え合う心と大切にしながらか健やかな子どもの成長を見守っていきましょう。

(3) 学童期と思春期から成人期に向けた保健対策

家庭や地域の中で子どもの心と体の成長を見守り、いのちの大切さを一緒に考え、伝えていきましょう。

喫煙や飲酒について、子どもたちへ影響を及ぼさないようにしましょう。

(4) 子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり

家庭や地域で子育てについて話し合い、子育て中の家族を見守り、応援していきましょう。

安心して子どもを産み、子どもがより健やかに育つために、「子育て世代包括支援センター」が中心となり、地域での連携のもと、切れ目ない支援体制での取り組みを推進します。

「笠間市健康づくり計画」の計画書(本編)は、市のホームページで閲覧いただけます。

笠間の歴史探訪 37

本年は笠間藩校時習館が創立二〇〇周年になることを記念して、特別展を開催します。今月は第二回目の連載となります。

将来を見通し人材を育成

笠間藩の医学

今回は、牧野氏が治めた笠間藩の医学について紹介します。笠間藩は水戸藩に先んじて藩校を創設、その後、医学館・講武館を設けるなど、人材育成を積極的に取り組んだことが今回の企画展準備と調査の中で明らかになりました。

江戸時代後半の宝暦・天明年間(一七五一〜一七八)、笠間藩領を含む北関東農村の荒廃は深刻な状態に陥りました。藩の財政を年貢収入に依存する笠間藩は重大な危機に立たされました。寛政四年(一七九二)藩主に就任した三代藩主牧野貞喜、そして四代貞幹の二代にわたる藩政改革は、近視眼的な小手先の改革でなく、藩の将来を見通して人材育成を重視しました。貞喜は窮乏する藩財政から資金を捻出して藩校時習館を創設、貞幹はさらにその内容の充実と発展を図りました。医学部門より、その施策と先人たちの奮闘の大筋を辿ってみます。

笠間藩は不足する医者を確保するため、江戸へ遊学する若者を援助し、医学修業を終えた人物を藩医に重用しました。文政七年(一八二四)、貞幹は長谷川宗仙(宗遷)を外科・中林宗益を本道科(内科)の医術稽古世話役に任命し、現在の桂町・笠間日動美術館の建つ宗仙の屋敷内に博采館(医学館)を創設しました。宗仙は博采館の医学教育を軌道に乗せました。若い時、宗仙は、当時先端医学とされたオランダ語を介した西洋医学

の第一人者として仙台藩医で、江戸京橋にて学塾芝蘭堂を主宰した大槻玄沢の下で約三年半ほど学び、玄沢からも将来を嘱望されました。一方、奥医師の一人結解素庵は医学塾鳳鳴館を開設し、各地の若者を受け入れました。素庵は宗仙や大槻玄沢・紀州の華岡青洲に学び、医業と塾生指導に生涯を捧げました。文政十三年、青洲より学んだ医学を駆使し、素庵は全身麻酔による外科手術を成功させました。今回、その記録(鼻痔見聞記)が初めて公開されます。このような先人たちの努力の跡と、その偉業を会場でご覧ください。

(市史研究員 矢口 圭二)



今回公開される「鼻痔見聞記」の1ページ (鈴木裕家所蔵)

特別展の開催情報

笠間藩校創設二〇〇周年記念特別展「時習館」〜若き武士たちの学び舎〜

会場：笠間公民館

期間：11月23日〜12月24日
時間：午前9時〜午後5時